

ロンドンパラリンピック競技大会で、日本は 16 個のメダルを獲得した。周囲の期待通りの力を発揮できた選手、メダルにあと一步届かなかった選手。しかし、いずれも競技後に口から出たのは、日本代表としての誇りと周囲への感謝の気持ちだった。

車いすテニスシングルス決勝で、国枝慎吾選手がフランスのステファン・ウデ選手を破り、2 大会連続で金メダルを獲得した。パラリンピックで自身 3 個目の金メダル。「よくやり遂げた」と振り返った。2 月に右肘を手術。ボールを打てない約 2 か月間は筋力トレーニングに励み、体が 2 回りほど大きくなった。ウデ選手は「彼はラリーを拾いながら決定打を返してきた」と脱帽した。北京大会後にプロへ転向。「車いすテニスを背負っていく責任がある」と言い、自分のプレーで多くの人がこの競技を始めてほしいと願ってきた。決勝は最高峰と呼ぶにふさわしい思いが込められた戦いだった。

一方、3 度目の挑戦で、金色のメダルをつかみ取ったのがゴールボール女子だ。初出場のアテネ大会では銅メダル。「次は金」と意気込んだ北京大会は 7 位に終わっていた。決勝戦では開始早々、中国の力強いボールが次々と投げ込まれたが、守備で核となる浦田理恵選手らが体を張った。前半 4 分、日本の攻撃で安達阿記子選手の投げたボールが中国選手の体に当たり、こぼれ球がゴールを割り、貴重な 1 点を奪う。試合終了を告げるブザーが鳴った瞬間、悲鳴のような歓喜の声が響き渡った。試合後、チームはコート上で輪になり、お決まりの掛け声「せーの、よしっ!」。視覚障害がある 6 人の団結力が、頂点に立った大きな要因だ。全員が体いっぱい喜びを表現した。

陸上車いすでは、伊藤智也選手が 200・400・800 メートルで、銀メダルを獲得。北京大会では金メダルだっただけに期待も大きかった。3 レースを終え、「最高のラストラン。今後は諦めない心、壁にぶつかる勇気を伝えていきたい」と話した。

また、自転車個人ロードタイムトライアル（脳性まひ・運動機能障害）の藤田征樹選手、競泳 100 メートルバタフライ（視覚障害）で木村敬一選手、50 メートルバタフライ（運動機能障害）で前回北京大会 2 位の小山恭輔選手、陸上男子 5,000 メートル

金メダル 5 個

正木健人	柔道	男子 100 kg 超級
秋山里奈	競泳	女子 100 m 背泳ぎ (S11)
田中康大	//	男子 100 m 平泳ぎ (SB14)
安達亜記子	ゴールボール	女子
浦田理恵	//	//
欠端瑛子	//	//
小宮正江	//	//
中嶋茜	//	//
若杉遥	//	//
国枝慎吾	車いすテニス	男子シングルス

銀メダル 5 個

中村智太郎	競泳	男子 100 m 平泳ぎ (SB7)
木村敬一	//	男子 100 m 平泳ぎ (SB11)
伊藤智也	陸上競技	男子 400 m (T52)
//	//	男子 800 m (T52)
//	//	男子 200 m (T52)

銅メダル 6 個

鈴木孝幸	競泳	男子 150 m 個人メドレー (SM4)
//	//	男子 50 m 平泳ぎ (SB3)
藤田征樹	自転車	男子個人タイムトライアル (C3)
木村敬一	競泳	男子 100 m バタフライ (S11)
小山恭輔	//	男子 50 m バタフライ (S6)
和田伸也	陸上競技	男子 5,000 m (T11)

*カッコ内は障害の程度を表す

（視覚障害）で初出場の和田伸也選手がそれぞれ銅メダルに輝いた。競技後、「今までやってきたことを生かされたいい走りができた」（藤田選手）、「本当は金を獲りたかったが、このような舞台で泳げたのは幸せ」（小山選手）、「ラスト 1 周もイメージ通り理想的だった。銅に届き最高にうれしい」（和田選手）などとコメントした。

閉会式では、各国の選手が入場行進。日本の旗手は、ゴールボールの小宮正江キャプテンが務めた。

フィリップ・クレイバン・国際パラリンピック委員長は「また 4 年後にお会いしましょう」と閉会宣言。聖火台の聖火が消され、ロンドン大会は幕を閉じた。次回は 2016 年にブラジルのリオデジャネイロで開催される。

（福祉新聞・第 2591 号 2012 年 9 月 17 日）